

6. 事業内容	事業目標： 1. 高等専門学校生がHIV/AIDSに関する知識を身につけ、予防意識を高め、感染予防のための行動を取る（安全な性行動、コンドームの使用、HIV抗体検査の受診等）。 2. ピアエデュケーターと高等専門学校の職員がピアエデュケーター育成とピア教育の手法を身につける。 上記の事業目標を達成するため、第二期は第一期とは異なる新たな6つの高等専門学校を対象に以下の活動を行う予定である。当団体は県内の高等専門学校でHIV/AIDS予防教育を実施する唯一の団体であり、事業を実施する意義は大きいと考える。 活動： ① 高等専門学校職員への事業説明会 ② 高等専門学校職員・高等専門学校生代表・チェンマイ県保健局職員・感染症対策室職員への合同事業説明会 ③ 高等専門学校生ピアエデュケーター育成研修（計 120 名を育成） ④ 高等専門学校の職員を対象にしたカリキュラムやモニタリングツール作成のための会議 ⑤ 学校内ネットワーク月例会議と研修後のフォローアップ ⑥ ピア教育プログラム企画・メディア開発の発表会：高等専門学校生ピアエデュケーターが独自のアイデアで企画したピア教育プログラムや使用するメディアを開発して発表・共有する。 ⑦ ピア教育活動：高等専門学校生ピアエデュケーターによるピア教育活動実施。年間 18 回のピア教育活動（計 1,710 名対象、各校 3 回ずつ）と 12 回の特別キャンペーン（計 1,000 名対象、各校 2 回ずつ）を行う。また、世界エイズデー等年間 6 回移動検診車（中型バス）を用い HIV 抗体検査を実施する（計 100 名対象）。 ⑧ 各学校に「ピア教育ルーム」を開設：高等専門学校生ピアエデュケーターが活動を企画したり、悩みを抱えた高等専門学校生が相談に訪れるための場所の提供（6 つの高等専門学校に開設）。 ⑨ ピア教育経験を積んだ高等専門学校生ピアエデュケーターによる後輩ピアエデュケーター育成研修：高等専門学校生ピアエデュケーターが次年度に活動する後輩ピアエデュケーターを育成する。これにより毎年新しいピアエデュケーターが育成されることを期待する。（計 120 名育成） ⑩ 中間会議、年次評価会議の開催 ⑪ ベースライン調査、年度終了時調査 参考資料②各活動の詳細説明、参考資料③受益者数
7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など	① これまでの事業における成果（実施した事業内容とその具体的成果） 中間報告の 2013 年 12 月末時点で、第一期の支援対象である 6 つの高等専門学校から 121 名のピアエデュケーターを育成し、計 619 名の学生（目標人数の 34%）がピア教育に、計 1,850 名（目標の 206%）が特別キャンペーンに参加した。また、移動検診車を使った 3 回の HIV 抗体検査では計 158 名が受診し（うち本事業の対象年齢である 14-19 歳は 57 名、目標の 57%）全員が陰性であった。申請書に記載した 6 つの指標の達成度は以下のとおりである。

【指標 1】ピア教育に参加した高等専門学校生の HIV に関する知識テストの結果が実施前の平均 69 点から平均 98 点に上がった(目標値の 70 点を達成)。

【指標 2】直近の性交渉において HIV 感染を予防するための行動をとったと答える割合については、現時点でデータがなく、事業第一期終了前の 7 月に把握できる見込みである。

【指標 3】HIV 抗体検査を受診したと答える割合については、同じく現時点でデータがなく、事業第一期終了前の 7 月に把握できる見込みである。

【指標 4】高等専門学校生ピアエドゥケーター育成研修後に 121 名を対象に実施した知識テストでは、121 名中 90 点以上は 95 名で、79%の達成率である(目標値は 90%)。リーダーシップ能力とライフスキルについては、同じく現時点でデータがなく、事業第一期終了前の 7 月に把握できる見込みである。

【指標 5】高等専門学校職員は全てのピア教育活動に参加している(100%)。ピア教育活動の意義を理解し、積極的にピアエドゥケーターと関わり支援している。支援終了後も継続して独自に活動を続けたいと表明している。

【指標 6】ピアエドゥケーター全員が県保健局や性感染症クリニックの担当者、当団体職員などの連絡先を記した名簿を持っており、いつでも連絡できるようになっている。特別キャンペーンの際には、ピアエドゥケーターたちは学校の枠を超えて活動実施に協力している。

② これまでの事業を通じての課題・問題点

本事業実施に関して大きな問題はなく、ほぼ予定通りに進捗している。チェンマイ県保健局や各高等専門学校との協力関係が良好であり、本事業の必要性が高く評価されている。以下に、中間レビュー会議で指摘された課題や運営上の問題点を述べる。

- 1) 上記①指標 4 に記載した通り、高等専門学校生ピアエドゥケーターの知識テストでは 79%で目標値には未達である。
- 2) 高等専門学校生ピアエドゥケーターのリーダーシップ能力とライフスキルを測るチェックリストの質問事項に不備があった。(指標 4)
- 3) ピアエドゥケーターの学生たちは授業が忙しく、またそれぞれの所属コースによって時間割が異なるため活動のために集まる時間を確保することが困難である。
- 4) 学生たちが HIV 検査の重要性を理解してから検査を受けるという行動を起こすまでに時間がかかるため、タイのお祭りの時期や世界エイズデーに合わせて実施した検査では、十分な検査人数に至らなかった。

③ 上記②に対する今後の対応策(第一期後半以降)

- 1) 事業第一期終了前のテストで、高等専門学校生ピアエドゥケーターの 9 割が 90 点以上になるように知識の強化を目指す。正しい知識を身につけるためにパンフレットの内容を工夫し、高等専門学校の学生のレベルにあった伝え方を心がける。(指標 4)
- 2) リーダーシップ能力とライフスキルのチェックリストを改訂し、第一期終了前にチェックを実施し、達成度を確認する。(指標 4)
- 3) ピアエドゥケーターが昼休みや放課後に集まれるように、事前に予定を決めておく。
- 4) HIV 抗体検査を第一期の後半でも実施し、多くの学生の受診を促す。

8. 期待される成果と成果を測る指標	事業目標の達成度を以下の指標で測ります。 1. ピア教育に参加した高等専門学校生の予防意識チェックリスト・HIVに関する知識テストの結果が少なくとも 70 点以上になる。(現状値：過去 3 年間の大学生の事前知識テストの平均結果が 68 点であるが、高等専門学校生は大学生より 3 歳ほど若く、学力も全体的に低いため、大学生の事前知識テスト結果を目標値とした。) 2. ピア教育に参加した高等専門学校生のうち、直近の性交渉において HIV 感染を予防するための行動（安全な性交渉のための話し合いをする・コンドーム使用等）をとる割合が事業実施前より 15% 増える。(現状値：統計上は 20-40%) 3. ピア教育に参加した高等専門学校生のうち、HIV 抗体検査を受診したと答える人の割合が事業実施前より 10% 増える。(18 歳以下の検査は保護者の承認が必要なため現状値はほぼ 0%) 4. 高等専門学校生ピアエデュケーターの HIV/STI 知識テスト（目標値：9 割の学生が 90 点以上）、リーダーシップ能力とライフスキルのチェックリスト結果（目標値：70 点以上）が事業開始前より向上し、ピア教育を企画・実施できる（目標値：最終ピア教育が 100% 学生のみで自立して実施し、かつ 100% の学校のピアエデュケーターが次年度のチェンマイ保健局に対する予算申請書を作成する。) 5. 高等専門学校職員が 70% 以上の活動に参加し、ピア教育手法の知識と実施支援スキルを身につける。 6. 学生の感染予防行動をサポートする学生間と関係者間とのネットワークが構築され、高等専門学校の担当職員が一校につき一人、すべてのネットワーク会議に参加する。
---------------------------	--